

「神学生の証」



あさかわ まこと
九州バプテスト神学校 専攻生2年 浅川 真

(推薦教会：香住ヶ丘バプテスト教会)

全国壮年会連合の皆様には、わたしたち神学生のために祈り、物心両面にわたってお支え頂きましてありがとうございます。さて私はバプテストマに与ってまだ3年も経っておりません。それまではカトリック教会に所属していました。当時の神父さんにバプテスト神学校への推薦状を頂きました。神父さんもキリスト教の勉強をすると言うことで喜んで下さいました。入学試験は、当時九州バプテスト神学校のあった鳥飼教会で行われました。面接において「私は牧師になります」と申し上げた事を今でも思い出します。当時は、カトリック教会所属のままバプテスト教会の牧師に就けると考えていたようです。(かなり昔の事なので正確に思い出せません)そして試験に合格し、九州バプテスト神学校での学びが始まりました。しかしながら学びは進みませんでした。所属教会の環境の違いもある

と思いますが、一番の原因は私自身の神学校での学びの姿勢でした。聖書の御言葉が良く分かりませんでしたし、その御言葉について語り合う環境を見つける知恵も浮かびませんでした。そんな時に聖書を釈義する授業に出会い、聖書のことをもっと知りたいと思いました。あの分厚くて何が書いてあるか皆目分からなかった書物が、大切な書物として輝き出したのです。神学校本科修了の際に、私はカトリック教会で何が出来るのか考えました。私は御言葉について語りたいと神父さんに相談しましたが、それは叶わない事でした。そんな時にバプテスト教会で聖書を語らせて頂く役割を目指しませんかとお誘いを受けました。神父さんと相談し、カトリック教会からバプテスト教会へ転籍して専攻科へ進学しました。神学校での学びは、聖書を通してキリストの自由に導かれるものです。どうか今後も、各神学校への祈りとご支援をお願いいたします。

地方連合壮年会等代表者会議(5/27)報告

事務局長 三室 日朗

この会議は、全国13地方連合壮年会長と奨学金委員、壮年会連合役員が一堂に会し、定期総会に役員会から提案する議案について審議をする場ですが、今回もオンラインでの開催となりました。初めに各地方連合から前年度の報告と今年度の計画について発表し合い、頂いている恵みと課題を分かち合った上で、議案の審議に入りました。前年度の報告関係議案および次年度の神学校献金目標額の議案が承認され、その他の議案についても内容に問題がないことが確認されました。

午後は「伝道者養成」に関する連盟理事会と壮年会連合との二者協議、伝道者養成検討委員会での協議の進捗状況の報告を受け、引き続きその経過を見守っていくこととしました。また今年度、壮年会長を立てられない地方連合が3連合あり、他の連合でも役員選出に苦労しているとの話があり、一方で「壮年会」、「女性会」などの縛りを解いて信徒が活動することについての動きが教会・連合単位で始まっていることも報告された。この課題については、秋に開催予定の第2回代表者会議であらためて話し合う予定である。

神学校献金推進委員会議(6/3)報告

副会長 豊永 義典

全国8地区からの神学校献金推進委員、奨学金委員、役員がZoomによる会議を行なった。今回は、昨年度の会議前に実施した「神学校週間のための各種資料の活用状況のアンケート」結果をフォローしながら、今年の神学校週間をどう盛り上げていくか、ということとともに、各教会単位・連合単位の活動状況を聞くなかで、信徒活動を目的別・機能別に再編しようとする動きが始まっていることについての意見交換を行った。

会議の後半では、昨年度の連盟の定期総会で新しい「伝道者養成の基本理念」が承認されたことを受けて、4月以降の「伝道者養成検討委員会」や「連盟理事会と壮年会連合役員会との二者協議」のなかで話し合われている内容を報告しながら、現状とこれからの予定について理解を深めた。最後に、今年の東京担当の壮年会の内容について、実行委員として準備を進めているメンバーから、概要が説明された。大会の中で、今年も神学校献金推進委員が献金推進のためのアピールを行なう。



日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務：月、水、金 10:00~16:00 ☎fax:048-886-7533 http://www.sonnen.net sonnen@bapren.jp

伝道者養成 & 教会形成

全国壮年会連合 NEWS

第127号
2023/6/20
発行

日本バプテスト連盟
全国壮年会連合
発行人：山田誠一
編集人：三室一期
Topics Password ▶ sorengo

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

「第58回全国壮年大会の開催に向けて」

第58回全国壮年大会実行委員長 坂口 昌彦(目白ヶ丘教会)



主の御名を賛美いたします。主に連なる全国の壮年の皆様！いよいよ待ちに待った「教会が元気になるには」を主題に掲げた第58回全国壮年大会が8月25日26日の両日、東京で開催されます。この3年ほどコロナ・ウイルス禍にてできなかった久々の対面による大会となります。勿論、ご多忙の方、遠隔地にお住まいの方々のために、この数年間で盛んになったオンラインによる参加も併用致します。

第58回全国壮年大会実行委員会では、開催に向けて主なプログラムとして開会礼拝、主題講演、分団、懇親会、アピール、派遣礼拝等を立ち上げて参り殆どの行事の詳細も90%以上出来上っております。

まだ予断は許されませんが、久々に1年ぶりいや3年ぶりに遠くの友と「やあ、元気でしたか？」と笑顔で声を掛け合い共に祈り語り合える喜びを享受できる大会を旨に準備を進めて参りました。

主題講演は大会主題と同じ「教会が元気になる

には~にも拘わらず、新しい共同体を求めて~」と題して濱野道雄西南学院大学神学部教授にお願い致しております。

対面による大会として、集まった壮年が互いに直接顔を合わせて大いに語り合うことのできる、分団と銘打った「ミーティング」の時を持つことに注力し、更には「懇親会」を教会近隣会場にて持ち、楽しい交わりの時と致します。この様に楽しい中にも主を中心として主題講演を受けての意見交換を始め教会の将来および神学校や神学生のサポート等についても語り合う場となるでしょう。

この大会が主の御心に沿うと共に、全国壮年の方々に喜んで頂ける大会となります様、皆様と共に祈り致したいと思います。全国の壮年の皆様はじめ老若男女を問わず、また中には遠隔地にてタイトな予定でオンラインによる参加を余儀なくされる方もいらっしゃるとは存じますが、是非、新会堂献堂なった大井教会にお集まり下さり共に語り合いましょう。お待ち申し上げます。

2023年度定期総会議案

1	2023年度総会議長選任の件 (西九州地方連合から)	6	2023-2024年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計
2	2022年度全国壮年会連合活動報告・決算報告・監査報告に関する件	7	2023年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算案及び2024年度全国壮年会連合奨学金会計予算案の件
	1. 2022年度全国壮年会連合活動報告 資料：2022年度神学校献金・会費実績一覧	報告	1) 2023-2024年度選挙管理委員会立ち上げの件
	2. 2022年度全国壮年会連合一般会計決算報告		2) 奨学金委員の交替の件
	3. 2022年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告	8	2024-2025年度全国壮年会連合役員選挙の件 会長・副会長・監査の選出、事務局長・会計・書記の推薦承認
	4. 2022年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計収支報告 資料：日本バプテスト連盟神学生奨学金会計決算報告	9	2024-2025年度全国壮年会連合奨学金委員長選挙の件 委員長の選出、委員の推薦承認
5. 2022年度監査報告	10	規約等改定の件 全国壮年会奨学金の給付及び貸与額等に関する細則改定の件	
3		2024年度神学校献金(神学生奨学金献金)目標額設定案の件	
4	2023-2024年度全国壮年会連合活動計画案の件 資料：2023-2024年度全国壮年会連合活動カレンダー	11	第60回(2025年度)全国壮年大会担当地方連合の件(北関東地方連合)
5	2023年度全国壮年会連合一般会計修正予算案及び2024年度全国壮年会連合一般会計予算案の件	12	第59回(2024年度)総会議長の件(北関東地方連合から)

「傷口からみ言葉を語る」

日本バプテスト広島キリスト教会 牧師 播磨 聡



クリスチャンホームで育った私は、教会の方々に愛され、祈られ、小学5年生の時にバプテスマを受けました。中学生になって、福岡連合の修養会や全国少年少女大会に参加し、多くの友に囲まれ、信仰の喜びを感じるようになりました。牧師として神に仕えたいとも思いました。しかし、それは自分の勝手な思いに過ぎないということも分かっていました。

そのような時、久山療育園にボランティアに行ったのですが、私はそこで衝撃を受けました。おやつを介助をしていた時、顔を真っ赤にさせ、せき込みながら食べているその園生が、「おいしい」と私に笑いかけてきたのです。必死におやつを食べながら、それでも相手に感謝の気持ちを伝えようとしている。その真剣に生きようとしている姿に、ボランティアをしてあげているという高慢な思いを持っていた自分が打ち砕かれました。そして、自分もこの園生のように、真剣に生きたいと思ったのです。そして、もしかして、間違っているかもしれないけれど、神さまが私を牧師に召しているならば、純粋に一生懸命に応えたいと思い、高校卒業後、神学部に入學しました。

神学部に入學した時には、私は7年ぶりの一年生とチャホヤされました。しかし、神学部での学びは、信すればすべて良い結果が与えられるというようなこれまでの信仰が問われ、挫折し、行き詰まりを覚えるものでした。それでもそのような中で、傷ついた人に触れてくださるイエスさまの姿が信仰の土台であることを学べた時でありました。

神学部を卒業し、骨を埋める決意で赴任した最初の教会で、私は教会の方々と信頼関係が築けず、わずか二年で辞任することになりました。自分が召命だと思っていたことは間違っていたと思いました。次の赴任地の紹介も断り、トラック運転手の仕事、特に終わりの時間がはっきりしている仕事に平安を覚えました。

それから半年ほど経った時、鹿児島教会の方が牧師招聘の話を持って来られました。私は、以前の教会で失敗した人間で、もう牧師にはなれないと断ったのですが、その方が言われました。「先生は、傷ついておられる。でも、私たちが求めている牧師は、失敗したことの無い人ではありません。先生のその傷口からみ言葉を語ってください」。私は頭の上から電流が流れるような衝撃を覚えました。そうだ、そうだった。私の信じたイエスさまは、傷ついた者、失敗した者を用いる方だった。そう言ってくださる教会があるならば、私は、もう一度牧師として立たせていただきたいと思うようになりました。そして、鹿児島教会の牧師として立たせていただき、牧師の醍醐味を味あわせていただきました。

今も、広島教会で、教会員の皆さんの許しと祈りに支えられて、ホーレス支援や少年院の面接をさせていただいています。牧師は不思議な仕事です。行き詰まり、傷ついた方々に寄り添わせていただける仕事です。上手い出来ないこともあります。私が誰かを傷つけることもあります。心が折れるような悲しみもあります。それでも、牧師は、人間として大切なものを貫かせていただける素晴らしい仕事です。忙しく、煩わしいこともありますが、幸せです。広島教会では新しく生活困窮者を支援する活動が始まり、地域の方との出会いが起きています。これまでの伝道方法や、教会のスタイルは変わっていきますが、神さまが遣わされた教会の使命はますます大きなものになると感じています。先の見えない時代の中ですが、先立ち給う主に導かれ、神さまと隣人に、一緒に仕えていきましょう。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ14:17)

「召命 ～ 出会いによって導かれて」

西南学院バプテスト教会 西脇慎一



わたしは、調布バプテスト教会に通うクリスチャンホームに生まれました。教会員に受け入れられ、愛され、教会はわたしの大切な居場所の一つとなりました。教会学校では聖書を教わりましたので、神さまの存在は受け入れられましたが、イエス・キリストと自分の関係はよくわからないままでした。13歳の時にバプテスマを受けましたが、その理由は主の晩餐式のパンとぶどうジュースが飲みたかったからでした。

信仰を自分の事柄として考えるようになったきっかけは、高校生の時に起きた父親の会社の倒産の出来事でした。神さまが信者を守られないことにショックを受けました。そんな神さまを信じていても意味がないと思いました。もし13歳の時に何もわからないながらもバプテスマを受けていなかったら、恐らく教会から離れていたことだと思います。

当事者であった父と母は、そのようなどん底の出来事に見舞われようとも、信仰を捨てずにいました。かえって二人の信仰はその出来事によって強くなっていったような気がします。わたしはそんな両親たちを見ているうちに、「信仰」が与えるものは、神さまを信じていたら祝福や成功をお与えくださるというような安直な恵みではなく、むしろ絶望のような状況にいる時に決して消えない希望を示すものであることが分かりました。パウロが伝えた「わたしは弱いときにこそ強い」(Ⅱコリ12:10)ということが分かるようになりました。この時に初めて「信仰」が自分の出来事となりました。

家は、経済的な苦境に陥りました。しかし、食べることは何とか守られました。その後、一浪の末、祖父母の援助や奨学金を得て大学に行くことができた私は、クリスチャンカウンセラーになりたいと思い、ルーテル学院大学に進みました。そこではルーテル派の神学生や他派のクリスチャンとの出会いがあり、超教派の集会にも参加するようになりました。出会いの中で、献身の思いが与えられましたが、「教会は働きたいが、牧師にはなりたくない」と思っていました。「牧師」のイメージがあまりよくわかっていなかったためです。

その頃、東京地方連合青年会の活動で関わりのあった、当時多摩川教会の野口日宇満牧師が「長崎教会で青少年に関わるスタッフを募集しているのだけれど、紹介してもいいか？」とお声かけくださいました。長崎に行ったこともないわたしに縁はないだろうと思っていましたが、長崎教会は「教会主事」としてわたしを招いてくださいました。限定的で自己中心的な祈りも聞かれるものだとびっくりしました。

2009年まで4年間、当時の友納靖史牧師のご指導の下、教会主事としてチームで働く中で、多くの恵みや貴重な体験をさせていただきましたが、自分の足りなさに直面することが多くありました。そして今後とも教会主事として、神さまのために仕えていくためには、改めて聖書の勉強が必要だと感じました。

その頃には不思議と「牧師はいやだ」という限定は消え、神さまの導きの内に全てを委ねる思いが与えられました。そして、長崎教会から西南学院大学神学部への教会推薦を頂き、伝道者としての歩みを始めました。そして、2014年からは神戸、2021年9月からは西南学院へと導かれました。神さまの導きは不思議です。

今回「召命」というテーマを頂きました。改めて考える中で、私にとっては大きな一つの出来事というより、一つ一つの出会いの中で紡がれてきた導き全てが「召命」のように感じられます。その時々悩み、迷い、祈りますが、神さまが全てのことを守り、最善へと導いてくださることを信じるのが、私の信仰です。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」(ローマ8:28)